

がやチラ

ちょっと面白いコミュニティスペースでの毎日



先日、新潟で一人暮らしをしていた七十六歳の叔父が亡くなりました。
大きな病気をしていたわけではなく、突然の別れでした。その知らせを受け、私たちは慌ただしく新潟へ向かい、葬儀やさまざまな手続きを進めることになりました。
叔父が暮らしていた家は、祖父母が建てた家です。十年前に祖母が亡くなり、二年前には叔母が亡くなりました。そして今回、叔父も旅立ち、この家で暮らしていた家族は誰もいなくなりました。

母も高齢となり、もう何度も新潟へ行くことは難しいでしょう。私も二年前に妹を亡くしているため、祖父母の家や近所の様子を知っているのは、子どもの頃に毎年夏を過ごした私くらいになってしまいました。

葬儀を終え、お世話になったご近所の皆さんへ最後のご挨拶に伺いました。

「寂しくなるね。」

「おばあちゃんにも、おばさんにも、本当にお世話になったのに。」

そんな言葉をいただくたび、この家が地域の中で生きてきた長い年月を感じました。

挨拶回りを終え、片付けをしていると玄関のチャイムが鳴りました。

扉を開けると、一人の女性が立っていました。

よく見ると、子どもの頃、毎年夏になると一緒に遊んでいた近所の女の子でした。

もう四十年近く会っていません。お互いに歳を重ね、面影だけが昔を思い出させてくれます。

「理子ちゃんが来てるって聞いて。」

「この度は本当に・・・」

泣き出しそうな彼女とあらためて話をしていると、不思議なことに、あの頃の風景が次々とよみがえってきました。蝉の声や夕暮れまで遊んだ路地。毎年「また来年ね」と別れていた夏の日。

そして、その懐かしさの中で、私は初めて気づきました。

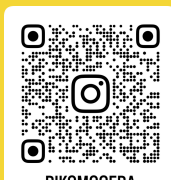
「ああ、この家は、本当になくなってしまふんだ。」

頭では分かっていたはずなのに、心はまだ受け止めていなかったのです。

その日初めて、「帰る場所」が一つ終わったことを実感しました。

彼女は、懐かしくて私に会いに来てくれたのでしょうか。でも、後になって考えると、あの再会は偶然ではありませんでした。

オーナー吉田りこのSNSたち



今すぐ
チェック！

祖父母が地域で暮らし、叔母が近所の人たちと笑い合い、叔父が何十年もその場所で生活してきた。そんな積み重ねがあったからこそ、「〇〇さんのお孫さんが来ているよ」という話が自然と伝わり、「それなら会いに行こう」という気持ちにつながったのです。

もし祖父母や叔父が地域との関わりを持たず、誰とも交流せずに暮らしていたら、あの日、玄関のチャイムが鳴ることはなかったでしょう。

私は今回の出来事を通して、人が地域に残していくものは、家や土地だけではないのだと感じました。人とのつながりこそが、その人が生きてきた証なのかもしれません。何気ない挨拶。「元気ですか」の一言。立ち話をした時間。困ったときに助け合った思い出... そんな一つひとつは、とても小さな出来事です。けれど、それらは静かに積み重なり、十年、二十年、あるいは何十年という時間を越えて、人と人を結び続けます。

帰りの車を運転しながら、私はずっと考えていました。私は今、この地域で、そんな関係を築けているだろうか。何十年後、誰かが「会いに来たよ」と言ってくれるような生き方ができているだろうか。その問いは、今でも私の中に残っています。

だからこそ、ガヤChill.は、人と人とのつながりが自然に育つ場所でありたいと思っています。「交流イベント」と聞くと、何か話さなければならない、友達を作らなければならない、そんなイメージを持つ方もいるかもしれません。でも、私たちが目指しているのは、少し違います。

本を読んでいてもいい。コーヒーを飲みながらぼんやりすごしてもいい。たまたま隣に座った人と少し話してもいい。その日は誰とも話さずに帰ってもいい。そんな自由な時間の中で、「こんにちは」「また会いましたね」という小さなやり取りが少しずつ積み重なっていく。その積み重ねが、一年後、五年後、十年後に「あの人、元気かな」「久しぶりに顔を見に行こう」と思える関係になっていくのではないのでしょうか。

今回、新潟で私が受け取った温かさは、一朝一夕に生まれたものではありませんでした。祖父母や叔母、叔父が長い年月をかけて育ててきた人とのつながりが、世代を越えて私のもとへ届いた、何より大きな贈り物だったのです。

私たちも、この地域でそんな贈り物を未来へ残していけたらと思います。ガヤChill.が、「また来ました」「久しぶりですね」と笑顔を交わせる場所になり、その何気ない時間が、いつか誰かの人生を支えるようなつながりへと育っていく。そんな場所を、皆さんと一緒につくっていきたいと思っています。

人がつながって生きる意味とは、きっと特別な出来事の中にあるわけではありません。今日交わした挨拶や笑顔が、何十年後の誰かの心を温める。そんな未来を信じて、人とのつながりを大切に育てていききたいと思います。

ガヤChill.

店長日誌： **ワイン×書道**

 8/11 (火祝) 19時-21時
コンセプトBAR: 3,000円
フリードリンク&フリーフード

ガヤチルで開いた「ワインを飲みながら、好きな文字をしたためる」ワークショップが新聞に掲載されました。講師は、もとはお野菜を買いに来てくださった近所の女性。買い物ついでに言葉を交わしたり、店先BBQにふらっと寄られたり、BAR営業日に顔を出してくれたり。そんな時間を重ね、ゆっくりとガヤチルのお友達になってくださいました。いろんな方と、色々な話をする場所。感心したり発見したり、ムリなら笑顔で流してもいい。そんな気楽さでガヤチルを覗きに來てください。

★火曜日：無&減農薬の美味やさい入荷★毎月の朝市では、お楽しみ試食をお出ししています★常設：ハンドメイド小物を販売中★席の時間貸し、キッチン付きレンタルルームは持ち込みOK



コミュニティCafe?!

ナニソレおいしい? そう返す方は少なくないはず(偏見)。

何をするとところ? 誰が使うの? そこに行ったら楽しい?

最近まで同じ疑問を抱いていた店長がゆるっとお伝えします。

越谷市大里226-1 1F (大袋駅徒歩10分)

コミュニティカフェ ガヤChill.

Instagram

